

2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立末広小学校	学校No.	26
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>目 標 ・ 「共に生きる力」を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験的な学習を大切にする ・ 地域の一員としての意識を育てる <p>計 画 ・ 福祉実践教室前の事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月20日福祉実践教室 ・ 事後学習 <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>福祉実践教室を実施までに事前学習を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本やネットで自分の興味を持ったこと、手話・点字・車いす・ユニバーサルデザインなどについて調べた。 <p>2025年6月20日に福祉実践教室を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 点字・手話・車いすの講師の先生から授業。 <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自、新聞にまとめた。 <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のさまざまな人たちとの出会いを通じて、興味・関心を持つようになった。 ・ 子どもたちが身の回りにある福祉に関することに気づき・理解するようになった。 ・ 命を大切にし、共生を目指していきたい。 			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立西成東小学校	学校No.	27
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>本校は、福祉教育への関心と理解を深め、様々な体験活動や交流を通して『福祉の心』を育てることをねらいとし、主に5年生では「総合的な学習の時間」の活動を中心に、全校では「福祉イベント」を行い、教育活動を進めた。</p> <p>特に5年生では、以下の目標を掲げ、計画立案、実践に取り組んだ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>目標 「ふ…ふだんの」「く…くらしの」「し…しあわせ」という、福祉の本質に理解を深め、学校、地域、家庭で自分にできることを追求し、実践する姿勢を養う。</p> </div> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) SSWによる講義 福祉という言葉の意味や、日常からわかる福祉に関するものについて講義をしていただき、児童らの理解を深めたうえで体験活動を実施した。</p> <p>(2) 福祉体験 講師の方を招いて福祉実践教室を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いす体験…車いすに乗った相手を移動させたり、自分で前進・後退・方向転換したりする活動を行った。使う人の気持ちやどんな手助けが必要かを学ぶことができた。 ・高齢者疑似体験…加齢に伴う身体的変化や生活上の不便さを体験し、高齢者への思いやりの大切さを実感するとともに、介護の基本的な考え方について理解を深めることができた。 ・認知症理解…講義で認知症の症状や接し方を学び、適切なコミュニケーションや支援の工夫について理解を深めた。 ・点字体験…点字の読み書きを行いながら、講師や周りの友人と交流を図った。点字への理解が深まった。 <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>総合的な学習の時間を福祉体験や調べ体験で学んだことをもとに、文章にまとめたり、学習した内容を発表したりした。学んだことをもとに、自分たちにできることを考えさせるなどして、福祉に対する気持ちを深めることができた。</p> <p>「講義を受ける」「体験を行う」の両方を計画的に実施することで、学びがより深まった。中学生で福祉体験を行うが、その際に今回の学びを生かしてほしい。そのためにも、一度きりで終わらず、学級活動や総合的な活動の時間、道徳などを活用し、継続的に指導していくことが大切だと考える。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学校名	一宮市立今伊勢西小学校	学校 No.	28
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>(1) 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人々との交流を通して、お互いの良さを認め合い、心豊かな生活が送れるようにする。 ・共生社会の構築に主体的にかかわることのできる児童の育成を図る。 <p>(2) 計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室 ・福祉実践教室の事前・事後指導 ・あいさつ運動 ・学校行事への高齢者の招待 ・各種募金運動 <p>(3) 推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に該当する学年または児童会、委員会で計画的、具体的に推進する。 ・4年生の総合的な学習の時間において、「福祉」について学び、理解を深める。また、4年生に対して福祉実践教室を実施する。 <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容</p> <p>福祉実践教室</p> <p>4年生は車いす体験、点字体験、ガイドヘルプ体験の3つの体験活動を行い、障がいのある方への理解を深めることができた。また、まとめの福祉新聞を作り、車いすや白杖などの道具への理解も深めた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>(1) 点字体験</p> <p>点字のひらがな表をもとに、一人ひとりが点字を製作した。視覚障がいの方と点字を通してコミュニケーションを取る活動や体験を通して、視覚障がいの理解を深めるとともに、共生への思いを育成することができた。</p> <p>(2) ガイドヘルプ</p> <p>アイマスクや白杖を使い、視覚障がいの方々の疑似体験やガイドヘルプ体験を行った。目が見えない怖さを感じるとともに、目が見えない人のために指示を出すことの大切さも学ぶことができた。</p> <p>(3) 新聞づくり</p> <p>福祉実践教室で学んだことをもとに、障がいのある方々の扱う白杖や車いす、盲導犬について調べ学習を行い、まとめの新聞を作成した。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>様々な活動を通して、児童は福祉の必要性や大切さ、さらに福祉に携わる人々への気持ちや課題に対して理解を深めることができた。共生社会の一員としての自覚が高まり、障がいのある方々へ手を差し伸べようとする実践意欲の向上が見られた。また、仲間を思いやろうとする意識が高まった。今後も、道徳や総合的な学習の時間でも育んでいきたい。</p>			

2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立葉栗北小学校	学校No.	29
-------	------------	-------	----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は、教育目標「伸びよ たくましく」の精神を学校教育の全面に生かし、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成をめざし、日々の教育活動に取り組んでいる。

福祉教育では、みんなが住みよい社会にするために、自分たちにできることは何かを考え、進んで地域社会に奉仕しようとする「ともに生きる」心を育てることを目標とした。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 福祉実践教室（5年生）

車椅子体験、高齢者疑似体験、ガイドヘルプ、手話に分かれて体験をした。体験を通して、子どもたちは、それぞれの福祉を必要としている方の苦労を知るとともに、ボランティアの重要性や助け合うことの大切さを実感することができた。



(2) 車いすバスケットボール体験（5年生）

「あすチャレ！スクール」（主催：日本財団パラスポーツサポートセンター）プログラムの車いす体験を行った。講師の方から実演を交えた説明を受けた後、実際に車いすを操作してみた。まっすぐ進んで元の位置に戻ってくるだけだが、なかなか思うように動かすことができず苦戦している子が多かった。子どもたちは、体験を通して障害に対する理解を深め、新たな気づきを得ることができた。



(3) 総合学習の発表会（5年生）

福祉をテーマに、5年生が発表を行った。みんなが幸せな暮らしとはどういうことかを考え、各自で調べたことを多くの保護者の前で発表することができた。発表のために調べたりまとめたりする活動の中で、身近な暮らしの中にあるさまざまな工夫を学ぶことができた。



(4) 赤い羽根、緑の羽根の募金活動

朝の登校時に、児童会や園芸委員会の児童が中心になって募金活動を行った。募金の意義についての呼びかけもあり、多くの児童が募金に協力していた。募金活動を通して、一人一人にできることはわずかでも、積み重なれば大きな結果が得られるということ、自分の行動が誰かの役に立つということを実感することができた。



3 福祉教育の成果と今後の課題

福祉教育には、それぞれの学年が総合的な学習の時間などを使って取り組んでいる。これらの学習を通して、子どもたちの心に芽生えた福祉の意識をさらに高めていくためにも、これからも相手との温かいかわり方を体験を通して学ぶ機会をもち、進んで地域社会に奉仕しようという心を育てていきたい。

2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立大和南小学校	学校No.	30
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>ア 目標 本校は、「知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい児童を育成する」を目標に掲げ、『自立できる子』を目指し日々の教育活動に取り組んでいる。</p> <p>イ 計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 福祉実践教室（5年生） ② 「発見！かっこいいカード」の取り組み（通年） ③ 異学年交流【なかよしペア活動】（随時） ④ 人権週間（12月） <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>ア 福祉実践教室 5年生が、福祉実践教室での経験をもとに、総合的な学習の時間に福祉についての調べ学習を行い、調べ、まとめた内容を学習発表会でそれぞれが発表した。</p> <p>イ 「発見！かっこいいカード」の取り組み 『自立できる子』の足がかりとなる「自己肯定感」の育成を目指し、自分や人のよいところ（「かっこよさ」）を自分で見つけ、周りの人と認め合う活動を行った。</p> <p>ウ 異学年交流【なかよしペア活動】 6年生と1年生、5年生と3年生、4年生と2年生をペア学年として、週に1回、中間放課・昼放課に交流活動を行った。 わくわく交流会を2学期、3学期に1回ずつ実施した。ペアのグループで校内の様々なゲーム挑戦した。今年度も、児童から出た意見を採用し、お化け屋敷をつくり多くの児童が楽しんでいった。また、6年生を送る会を3月に体育館で実施する予定である。</p> <p>エ 人権週間 人権に関する校長の講話、各学級で考えた人権スローガンの発表を行った。また、人権擁護委員の方をお招きし、低学年、高学年に分けて人権教室を実施した。その様子は、学校のWebページに掲載した。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>5年生で福祉実践教室を行った。実際に体験をすることで、障害のある方への配慮の意識が高まっていた。 人権擁護委員を招いて人権教室を実施したが、発達段階にあった動画や講話であり、全ての児童が人権について考え、友達の大切さ、思いやり、命の尊さ等について考えを深めることができた。 「発見！かっこいいカード」の取り組みにより、お互いの良いところを見つけ合い、児童の自己肯定感を高めることができた。 今後も、福祉実践教室や人権教室のように、専門機関と連携をした児童の心に響く活動を行っていきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。